

# 光といのち

第133号

—報恩講—

2021年11月5日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344-2

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメール [info@syozenji.or.jp](mailto:info@syozenji.or.jp)

住職 井上孝昌

天命に安んじて  
人事を尽くす

清澤満之

## 報恩講準備 仏具磨き



### 報恩講

速夜

十一月十九日(金)

十五時～十六時  
法話 住職

晨朝

十一月二十日(土)

六時十五分～四十五分  
法話 副住職

日中

十一月二十日(土)

九時三十分～十一時四十五分  
法話 東京港区了善寺住職

百々海 真師

※お勤めの次第は、見開きページ

皆さまに、住職に就任して以来ずっと願っていることがあります。それは、仏法を聴聞し人生を歩む人に成っていただきたいということですが、

修正会・春彼岸会・盂蘭盆会・秋彼岸会・報恩講そして法要の無い月に開催される勝善寺同朋の会(仏教を聞き語り合う会)、これらはすべて仏法聴聞の場です。とりわけ私たち浄土真宗門徒にとって大切な法要が、ご門徒が主催する報恩講です。

ですから三百余家のご門徒のみな様すべてが、浄土真宗門徒の証しとしてお参りしていただきたいところですが、どうぞ本年は、上記の三座の内一座には参詣するよう心がけて下さい。

参詣方法は、本堂とユーチューブ画面から自宅での二通りがあります。(見開きページ参照)なお、本堂内の座席は五十席とします。密集・密接を避けるためです。これを超えた場合は、調整いたします。

また、本堂で参詣する方は、必ずご自宅で検温し体調に異常の無いことを確認し、会場での手指消毒マスク着用をお願いし

ます。また換気しますので防寒対策をしてください。

**本堂参詣には申込みが必要**

世話人に所属する門徒

世話人にもお申し込みください。

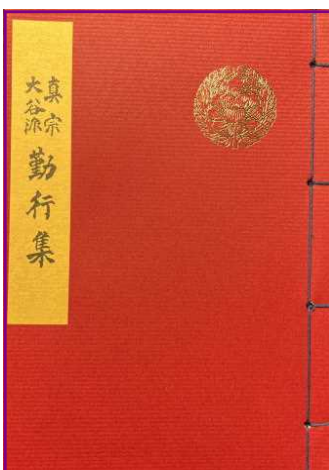
それ以外の門徒

寺に、直接お申し込みください。

締切り 十一月十日(金)

各法要は、『真宗大谷派勤行集』(赤本)を用いて皆さんでお勤めします。(見開きページ参照)

ユーチューブ画面から自宅に参加する方で所持していない方は、参加申込みのメールでお伝えください。郵送いたします。



# 本堂かご自宅（ユーチューブ）どちらかで、 報恩講をお参りしましょう！

## 1 ユーチューブを視聴するには

①パソコン・スマートフォンなどの端末装置で視聴します。

②勝善寺（[info@syozenji.or.jp](mailto:info@syozenji.or.jp)）からメールでURLを皆さんの端末装置に送ります。

例えば、URLは、<https://youtu.be/Q9uclhmyU50> と表示されます。

※11月18日（木）までにURLを送付します。ただしスマートフォンの迷惑メールフィルターを解除していないと届かないことがあります。この場合は、メールフィルターの設定を「@syozenji.or.jp」からの受信を許可するようにしてください。わからない時には、お手数ですがご使用のスマートフォンのサポートセンターなどにご相談ください。

③URLをクリックすると、勝善寺本堂内の映像が開きます。

## 2 準備

①勝善寺メールアドレスに、氏名と住所・電話番号を記し「報恩講にお参りします。」とメールしてください。申込み締め切りは、11月12日（金）です。

②お内仏（お仏壇）の掃除をします。真鍮製の仏具は磨きます。

③前卓に打敷（うちしき）をかけ、仏花とお供物を調えます。

※御本尊阿弥陀如来像と御脇掛け九字十字の名号が無い方は、申し出てください。

本山からお手元に届くよう取り次ぎます。

## 3 お勤め

①正装し、念珠を持ち門徒章（肩衣）をかけます。

②『真宗大谷派勤行集』（赤本）を用意します。

③ユーチューブライブに合わせて、お勤めします。

④法話を聴聞します。

## 4 報恩講志

御懇志をお寄せくださる方は、郵送あるいは下記の口座にお振り込みください。

館山信用金庫 店番 005 口座番号 0103547

宗教法人 勝善寺 代表役員 井上孝昌

## 次 第

逮夜 11月19日（金）15時～16時 同朋唱和

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| ①正信偈                | 『真宗大谷派勤行集』（赤本）3～32ページ |
| ②念仏                 | 同97ページ                |
| ③和讃「弥陀成仏のこのかたは」から6首 | 同 98～100ページ           |
| ④回向「願以此功德」          | 同101ページ               |
| ⑤『御俗称御文』拝読          | 別添                    |
| ⑥法話                 | 住職                    |

晨朝 11月20日（土）6時15分～45分 同朋唱和

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| ①正信偈                 | 『真宗大谷派勤行集』（赤本）3～32ページ |
| ②念仏                  | 同 97ページ               |
| ③和讃「専修のひとをほむるには」から6首 | 同111～113ページ           |
| ④回向「願以此功德」           | 同101ページ               |
| ⑤御文「御正忌」拝読           | 同 62～67ページ            |
| ⑥法話                  | 副住職                   |

日中 11月20日（土）9時30分～11時45分 同朋唱和

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| ①正信偈              | 『真宗大谷派勤行集』（赤本）3～32ページ |
| ②念仏               | 同 97ページ               |
| ③和讃「弥陀大悲の誓願を」から6首 | 同117～119ページ           |
| ④回向「願以此功德」        | 同101ページ               |
| ⑤法話               | 了善寺住職 百々海 真 師         |

## 報恩講法話について

清澤満之師をご存じですか。  
講師の百々海真先生には、師のことを  
お話しくださいと、お願いしました。

表紙題字下の言葉を私が知ったのは、寺  
を継ぐために東京大谷専修学院で学んでい  
た時のことでした。それまでの私は、おそ  
らく皆さんの多くがそうであるように、「人  
事を尽くして天命を待つ」ということわざ  
を金言として生きていました。ですから、  
それとは正反対のこの言葉との出遇いは驚  
天動地でした。

また師には、「自己とは何ぞや。是れ人世  
の根本的問題なり」という言葉もあります。  
それにも驚かされました。「自己とは何ぞ  
や」。この問いをふだんの生活の中では意識  
することはまずありませんが、私たちの心  
のもつとも奥底に必ずある問いです。その  
問いを探求する人生が仏道であると、師に  
教えられたからです。

振り返れば、清澤満之師のこれら言葉が  
私の仏道の出発点でありました。  
新型コロナ感染症の蔓延が契機となり、  
社会の変化が加速しています。ご門徒の皆  
さんと寺の今ある関係も次の世代にはどう  
なるのか、危ういところですよ。

寺は、「聞法道場」、人々が仏教を聞き語  
り合い、元気になる場所。

これを目標に、ご門徒の皆さんとの関係  
を結び直して行きたいと考えています。

## 天命に安んじて人事を尽くす



清澤満之(きよざわまんじ)

1863 - 1903

明治36年6月6日西帰・41歳

ことわざに「人事を尽くして天命を待つ」とある。

「まずは全力を尽くす」↓「ここまでやったから、あとはお任せだ」という運命論であり、広く知られた人生訓である。「あとは何とかして下さる」というほのかな期待も感じられ、この「天命」は「結論」であり「終着点」である。

一般に宗教に対するイメージも、このことわざどまりであろう。「こうなれば、あとは神頼みだ」となり、敬虔な不作為と判断停止を生む。本願他力も「自力は×・他力は○」といった相対的な構図にゆがめられ、改善努力や批判精神までを委縮させる骨抜きが起ころ。根深い誤解である。

明治期を生き抜いた清澤満之師は、ことわざとは真逆に「天命に安んじて人事を尽くす」と言われた。

「天命に安んじて」とは、因縁の法により成るように成っている現実回帰を促す命

令であり、「人事を尽くす」とは、己が分限  
|| 自分までも「天命」と拝命し、分限を尽  
くす「出発」を意味する。

某寺で目にした、藤代聡磨師の法語の  
一節を想起する。

「なるようにしかならぬだろうが、なるよ  
うには必ずなる。その成ったところに全生  
命を打ち込む」。

他力教は、無力主義ではない。真の自力  
主義と讃嘆したい。

以下、暁鳥敏師御作『清澤満之先生讃仰』  
和讃からの抜粋である。

「他力」への誤解を破って下さる、驚き  
の言葉の連発だ！

絶対他力はただひとつ  
天地に満つる力なり  
他力の外に自力なし  
自力の外に他力なし

われ等が自力と思っておる  
力も他力の廻向(えこう)なり  
天地に満つる妙用は  
自力他力と莊嚴(しょうごん)す

他力の教をききちがえ  
人の自力ときらいおる  
萬善諸行の根底に  
動く他力を教えたり

◎了善寺様(住職 百々海真師)ホームページ  
より転載しました。